

「国鉄改革」とは何だったのか

「国鉄改革の完遂」なるペテン

東労組はこの間、「国鉄改革の完遂を！」と繰り返し叫びつづけている。

いつものことだが、「国鉄改革完遂」だけが絶対的な正義で、それに反対する者はすべて「権力者の手先」というデマを繰り返し繰り返し吹き込み、組合員をだましていくというやり方だ。実際、彼らのピラには「国鉄改革完遂！」というスローガンだけは繰り返し掲げられても、国鉄改革とは何だったのかということとはひとことも語られない。

「国鉄改革」の本質

われわれは今も、「国鉄改革」など断じて認める事はできないという考えだ。国鉄分割・民営化当時の首相であった中曽根は、「国鉄改革」について「総評を崩壊させようと思ったからね。国労が崩壊すれば、総評が崩壊するということも明確に意識してやったわけだ」と語っている。総評(日本労働組合総評議会)は、当時の労働組合の全国センターであり、その中心部隊であった国鉄の労働運動が徹底した攻撃を受け、かつての動労(現JR総連)が全面的な裏切りを行って真つ先に総評を脱退する状況の中で解体された。そうしてできたのが現在の連合だ。総評が解体されて以降の日本の労働組合の状況は語るまでもないが、骨を抜かれ、政府や企業の手先になってしまった状態となった。

の首が平気で切られる状態にまで至ってしまったのである。

松崎(旧動労)の裏切り

結局「国鉄改革」とは、当時の首相自身が認めているように、日本の労働運動を潰すために仕組まれた攻撃であった。そして現在のJR総連は、総評に結集する全産別の労働組合が統一した反撃の闘いを準備していた矢先に、突然総評を脱退し、20万人の国鉄労働者の首切りに賛成するという歴史的な裏切りを行い、政府の手先となったのだ。

言っておくが、松崎(当時動労委員長)も、少なくとも85年までは「分割・民営化反対」を掲げていたのだ。それが、政府の攻撃が本格的なものだと見るや手の平を返し、政府・自民党と一緒にになって労働者を攻撃する側に回るという卑劣な道を選んだのである。

二〇万人の仲間が職場を追われた!

「国鉄改革」の美名の下、職場では何が起きたのか。国鉄が分割・民営化されたのは一九八七年だが、その前のわずか四年間ほどの間に、20万人の仲間が職場を追われたのだ。JR総連は「雇用を守った」などと言うが冗談ではない。真つ赤なウソだ。

を含め、高齢者はひとり残らず首を切られ職場を追われたのだ。

しかも旧動労の革マル系の役員たちは、各職場で高齢者に対して「後進に道をゆずれ！」と迫り、退職に追い込むようなことまでやったのだ。

さらに職場では、組合潰しのために徹底した差別と不当労働行為が吹き荒れ、首切り要員を生みだすための大合理化が強行される状況のなかで、二〇〇人の仲間たちが自殺に追い込まれた。こうした差別・選別攻撃の手先になったのも旧動労だった。

この現実へ答えよ

「国鉄改革」の罪はそればかりではない。「国鉄改革」の美名のもとに多数の地方ローカル線が廃止され、ぼう大な沿線住民の生活が破壊された。国鉄が保有していたぼう大な土地は、財界や政治家の利権となる一方、国鉄赤字は、分割・民営化以降も増えつづけて、ついにはタバコなどへの課税という形で国民負担となったのだ。しかし、それも、利払いで赤字が膨れ上がる分を処理しただけで、元本の返済については、今もそのメドすらたつてはいない。今後ぼう大な国民負担が強制されることは間違いない。

に働く仲間たちは、ベアゼロとか、夏季・年末手当すらまともに支払われない状態のなかで苦しんでいる。本州の三社でも、「完全民営化の達成」などと強弁できるのは東日本だけである。東労組の役員に聞きたいが、「国鉄改革」がもたらしたのは、こうした現実だ。東日本だけよければ、貨物や三島JRに働く仲間たちはどうなってもいいというのか。

犠牲にされた安全

さらに安全問題だが、元国鉄技師長であった瀧山 養氏は、繰り返し次のように警告している。技師長と言え、技術畑の国鉄のトップだ。

表向き、JRとなってからは、統計の上では運転事故は減少したことになるが、事故の内容は国鉄時代には考えられないような悪質なものが多発している。そのいづれもが大量殺人の大惨事となる資格が充分あったが、そうならなかったのは単に運がよかつただけだ。

国鉄改革は労組対策と累積債務の処理のみがクローズアップされ、技術や安全はもろろろん交通政策や公共性の側から検討されることはついになかった。国鉄時代には創造も出来なかつたような原因の事故が頻発したことは、無理な合理化と商業主義が先行して安全が軽視されたためである。

以上は、ほんの一部にすぎないが、これが「国鉄改革」の現実だ。東労組は何をもって「国鉄改革は素晴らしい」というのか、はつきりと答える義務があるはずだ。彼らが言う「国鉄改革の完遂」とは一体何なのか。(この点次号)